

フの方々により密な連携をとり、西三河地区の透析医療のため、課長三ツ石を筆頭に職員全員で努力して行く所存でございます。また、新築されたクリニックでは、透析患者の命の綱であるシャントの修復、いわゆる PTA（風船による血管拡張術）を積極的に行っていくつもりです。DSA 装置（レントゲン撮影装置の高級機種）を入れましたので、緊急のシャント閉塞などの治療にも対応可能です。当院以外の患者さんでも、時間の許す限り治療にあたらせていただきますので今後当院でのシャント PTA を是非ご利用ください。

ちょっと、血圧について

慢性腎不全は全身性の動脈硬化を主病変とする疾患でもあり、透析を受けていない方の診療とは異なり困難なことも多々あります。そこで今回は、透析患者の血圧・脈拍の特徴を少しだけお話をさせていただきます。お示した図は、透析医学会が 2005 年末時点で基礎集計した「わが国の慢性透析療法の現況」から引用したものです。

日本全国の 3 分の 1 の血液透析患者で、透析前の収縮期血圧（上の血圧）は 140mmHg から 160mmHg までの間にあり、脳卒中や心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症といった心血管系合併症のリスクが格段に高くなる 180mmHg を超える患者が約 1 割、また、心不全や栄養状態の悪いことが問題となる 120mmHg 未満の患者が約 7%いたと報告されています。拡張期血圧（下の血圧）は約 9 割の患者が 60~100mmHg の間に入っていました。また、全透析患者の平均で見ると、透析開始前の血圧は、153/79 mmHg で透析治療中の最低下時血圧は 123/69 mmHg、透析終了時の血圧は 138/74 mmHg といえるでしょうか。透析中の除水が進行すると血圧が下がってくることは容易に想像がつくと思いますが、普通は、血圧が下がると脈拍数が上昇してくるものですが、透析中の脈拍数はほぼ 75 回/分で一定して経過するといった興味深い特徴があります。自律神経機能の異常が原因と言われています。ある日本の疫学調査では、5 年ぐらいの透析歴を有する患者で高血圧の割合が多く、透析歴が長くなればなるほど高血圧の患者が少なくなるとのデータがあります。これは、10 年、20 年といった透析の長期化に伴い交感神経機能が低下し血圧が低下してくることに由来しますが、血圧の高い患者が脳卒中・心筋梗塞・心不全など心血管系合併症で長く生きられないためかもしれないとの推測もなされています。

透析患者の高血圧の原因として最も重要なのが、もちろん、水分・塩分過剰摂取による体重（体液量）増加であることは、万国共通の問題のようです。ちなみに、アメリカでの塩分制限はナトリウムの量として 2~3g/日とかなり厳しいものとなっています。塩好きの日本人には辛いかもしれませんね。

高血圧の治療に関してアメリカ腎臓財団のガイドラインでは、透析前の血圧を 140/90 mmHg 未満に、透析終了後の血圧を 130/80 mmHg 未満にするような治療を行うべきとしています。血液透析の腎不全医療における位置づけが日本とは大きく異なることを差し引いて考えても、高血圧の治療を十分行うことは透析患者であっても重要であるといったメッセージと理解されます。国内外のいくつかの疫学調査では、透析前収縮期血圧が 160~180 mmHg の患者の生存率が良好であるといったデータもあり、適切で望